

2022年9月7日

商品業務部 中島 三養子

## マーケット・フォーカス(商品:原油)

## OPECプラスは減産に転換、下値めどは80ドル前後か

■ WTI原油先物価格、景気減速懸念から足元1バレル=80ドル台後半まで下落

- 3月8日 WTI原油先物価格、1バレル=123ドル台まで上昇
- 8月30日 ドイツ8月消費者物価指数、市場予想を上回る。利上げ加速観測強まる
- 8月31日 石油輸出国機構(OPEC)と非加盟国で構成するOPECプラス、2023年の原油需給見通しを従来の供給過多から日量30万バレルの供給不足に修正
- 9月5日 OPECプラス会合、段階的増産から一転。10月は日量10万バレルの減産へ
- 9月13日 米8月消費者物価指数の発表

■ 今後の見通し

- 当面の原油価格の下値めどは1バレル=80ドル前後か。対ロシア制裁は世界的なエネルギー不足に拍車をかけ、天然ガスの高騰が続く。一方、商品価格高騰による買い控えや、中国のゼロコロナ政策による需要減も。また、脱ロシアから中東産原油に対する依存度が高まっている。9月5日のOPECプラス会合では減産に踏み切った。国際通貨基金(IMF)による推計ではサウジアラビアの22年の財政収支均衡となる原油価格は1バレル=79ドル台。今後この水準ではOPECプラスが価格を下支えか。次回のOPECプラス会合は10月5日予定
- 足元で価格下落要因としてみられているイラン核合意復帰による増産の影響は限定的か。同国の生産余力は推定日量130万バレル(8月時点)。その全量回復には設備の調整等に時間を要するとみられ、22年の輸出増加は日量数十万バレルにとどまるとの見方も
- 米原油在庫は例年秋から冬場にかけて積み増す傾向がうかがえる。今後は夏のドライブシーズンが終了し、ガソリン需要減退から10-12月期に原油在庫は増加に向かいそうだ。以上のことから22年の原油価格の予想レンジを1バレル=80~100ドルとする

WTI原油先物価格と米消費者物価指数(CPI)

(月次:2020/1~2022/9)

(1バレル/ドル)



(注1)米CPIは22/7まで

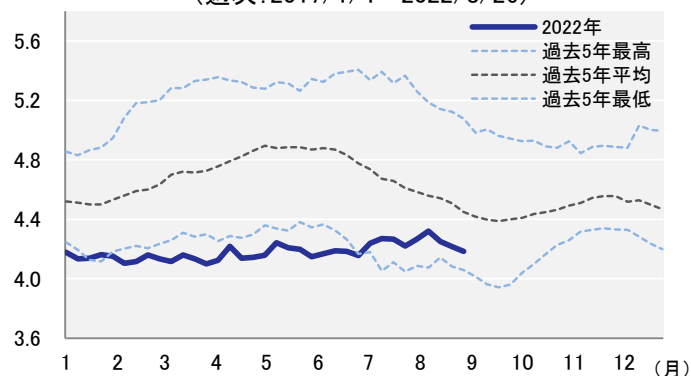
(注2)WTI原油先物価格は9/2時点

出所:ブルームバーグのデータよりみずほ証券作成

米国原油在庫

(週次:2017/1/4~2022/8/26)

(億バレル/日)



(注)過去5年は2017~21年

出所:ブルームバーグのデータよりみずほ証券作成

## 金融商品取引法に係る重要事項

- 当社取り扱いの商品等(外貨建商品等も含む)にご投資いただく際には、各商品等に所定の手数料(投資信託の場合は銘柄ごとに設定された購入時手数料および信託報酬等の諸費用等)をご負担いただきます。債券を当社との相対取引によりご購入いただく場合は、購入対価のみをお支払いいただきます。
- 各商品等には価格の変動や発行者の信用状況の悪化等により損失が生じるおそれがあります。
- 債券の利金・償還金の支払いについて、発行者の信用状況等によっては、支払いの遅滞・不履行が生じるおそれがあります。
- 外貨建商品等の売買等にあたり、円貨と外貨を交換する際には、外国為替市場の動向を踏まえて当社が決定した為替レートによるものとします。また、売却時等の為替相場の状況によっては為替差損が生じ、損失を被るおそれがあります。
- 商品ごとに手数料等およびリスクは異なりますので、当該商品等の契約締結前交付書面や目論見書またはお客さま向け資料等をよくお読みください。

商号等：みずほ証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第94号

加入協会：日本証券業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、  
一般社団法人第二種金融商品取引業協会

広告審査番号：MG5270-220907-04

この資料は投資判断の参考となる情報提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。銘柄の選択、投資に関する最終決定はご自身の判断でお願いいたします。また、本資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成したのですが、その正確性、完全性を保証したものではありません。本資料に示された意見や予測は、資料作成時点での当社の見通しであり今後予告なしに当社の判断で随時変更することがあります。